

Sun Server X3-2 (旧 Sun Fire X4170 M3)

Windows オペレーティングシステムインストールガイド



Part No: E35491-01
2012 年 9 月

Copyright © 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS. Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
最新のソフトウェアとファームウェアの入手	5
このドキュメントについて	6
関連ドキュメント	6
フィードバック	6
サポートとアクセシビリティ	7
Microsoft Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストールについて	9
関連情報	10
Windows OS をインストールする場合のタスクマップ	10
サポートされている Windows オペレーティングシステム	11
Windows Server 2008 SP2 用の LSI 大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA	12
コンソール表示オプションの選択	13
ブートメディアオプションの選択	15
インストール先オプションの選択	17
Windows OS のインストールオプション	18
Oracle System Assistant の概要	21
オペレーティングシステムのインストールの準備	25
BIOS の設定	25
RAID の構成	30
Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール	31
準備作業	31
Oracle System Assistant を使用した Windows Server 2008 の単一システムへのイン ストール	32
メディアを使用した Windows Server 2008 の単一システムへのインストール	36
Windows Server 2008 のインストール後のタスク	53
追加ソフトウェアコンポーネントオプション	53
デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール	54
Intel NIC チーミングの構成	56

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手	57
ファームウェアとソフトウェアのアップデート	57
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション	58
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ	58
ファームウェアとソフトウェアへのアクセス	60
更新のインストール	64
索引	67

このドキュメントの使用方法

このインストールガイドでは、Windows オペレーティングシステムのインストール方法と、Sun Server X3-2 を Oracle から構成および使用できる状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。

注 - Sun Server X3-2 は以前は Sun Fire X4170 M3 サーバーという名前でした。この旧名がまだソフトウェアに表示されている場合があります。新しい製品名は、システム機能の変更を示すものではありません。

このドキュメントは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (ASP)、およびオペレーティングシステムのインストールについての経験を持つユーザーを対象としています。

このセクションでは、最新のソフトウェアとファームウェア、ドキュメントとフィードバック、およびサポートとアクセシビリティ情報の入手方法を説明します。

- 5 ページの「最新のソフトウェアとファームウェアの入手」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 6 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「フィードバック」
- 7 ページの「サポートとアクセシビリティ」

最新のソフトウェアとファームウェアの入手

各 Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシ用のファームウェア、ドライバ、その他のハードウェア関連ソフトウェアは定期的に更新されます。

最新バージョンは次の3つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant - Oracle x86 サーバーの出荷時にインストール済みの新規オプションです。必要なすべてのツールとドライバが含まれており、サーバーに組み込まれています。
- My Oracle Support: <http://support.oracle.com>

- 物理メディアの申請

詳細は、57 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。情報は(オンラインヘルプと同様の)トピック単位の形式で提供されるので、章、付録、セクション番号はありません。

特定のトピック(ハードウェア設置やプロダクトノートなど)に関するすべての情報が含まれる PDF 版を生成するには、HTML ページの左上隅にある PDF ボタンをクリックします。

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	http://www.oracle.com/documentation
Sun Server X3-2	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX3-2
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
Oracle Hardware Management Pack 2.2	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp

フィードバック

次のサイトでこのドキュメントについてのフィードバックをお送りいただけます:

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com 聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

Microsoft Windows Server 2008 オペ レーティングシステムのインストールに

ついて

注 - サーバー は以前は Sun Fire X4170 M3 サーバーという名前でした。この旧名がまだソフトウェアに表示されている場合があります。新しい製品名は、システム機能の変更を示すものではありません。

このセクションでは、サーバーに新しい Microsoft Windows Server 2008 オペレーティングシステム (OS) をインストールする手順の概要を説明します。

説明	リンク
Windows オペレーティングシステムのインストール手順について学習します。	10 ページの「Windows OS をインストールする場合のタスクマップ」
サポートされている Windows オペレーティングシステムについて学習します。	11 ページの「サポートされている Windows オペレーティングシステム」
SAS HBA のストレージドライバ要件について学習します。	12 ページの「Windows Server 2008 SP2 用の LSI 大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA」
コンソール表示オプションとそれらの設定方法について学習します。	13 ページの「コンソール表示オプションの選択」
ブートメディアオプションとそれらの設定方法について学習します。	15 ページの「ブートメディアオプションの選択」
インストール先オプションとそれらの設定方法について学習します。	17 ページの「インストール先オプションの選択」
オペレーティングシステムのインストールオプションについて学習します。	18 ページの「Windows OS のインストールオプション」
Oracle System Assistant について学習します	21 ページの「Oracle System Assistant の概要」

関連情報

- [31 ページの「Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール」](#)

Windows OS をインストールする場合のタスクマップ

次の表は、Windows Server オペレーティングシステムをインストールするための手順の一覧と説明を示します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『設置』、「サーバーのラックへの設置」 ■ 『設置』、「サーバーの配線」 ■ 『設置』、「Oracle ILOM への接続」
2.	Windows インストールメディアを取得します。	http://www.microsoft.com/windowsserver2008/en/us/product-documentation.aspx
3.	製品の注意事項を確認します。	『Sun Server X3-2 プロダクトノート』: http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX3-2
4.	インストールの実行に使用するコンソール、ブートメディア、インストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 ページの「コンソール表示オプションの選択」 ■ 15 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 17 ページの「インストール先オプションの選択」
5.	BIOS を確認し、必要に応じて構成します。	25 ページの「BIOS の設定」
6.	Windows OS をインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 32 ページの「Oracle System Assistant を使用した Windows Server 2008 の単一システムへのインストール」 ■ 37 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) のインストール」 ■ 49 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) のインストール」
7.	インストール後のタスクを適宜実行します。	53 ページの「Windows Server 2008 のインストール後のタスク」

関連情報

- 25 ページの「オペレーティングシステムのインストールの準備」

サポートされている Windows オペレーティングシステム

サーバーは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

Windows OS	版
<ul style="list-style-type: none"> ■ Windows Server 2008 SP2 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Standard Edition (64 ビット) ■ Enterprise Edition (64 ビット) ■ Datacenter edition (64 ビット)
<ul style="list-style-type: none"> ■ Windows Server 2008 R2 SP1 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Standard Edition (64 ビット) ■ Enterprise Edition (64 ビット) ■ Datacenter edition (64 ビット)

さらに、サポートされているその他のオペレーティングシステムや仮想マシンをサーバーにインストールすることもできます。サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全な一覧については、最新バージョンの『Sun Server X3-2 プロダクトノート』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX3-2>)を参照して更新情報を確認してください。

関連情報

- 31 ページの「[Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール](#)」

Windows Server 2008 SP2 用の LSI 大容量ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA

次の表に、このドキュメントの発行時点にサーバーでサポートされている SAS PCIe ホストバスアダプタ (HBA) オプションを示します。サーバー上にこれらの SAS PCIe HBA オプションのいずれかを構成し、Microsoft Windows Server 2008 SP2 をインストールする場合は、PCIe HBA オプション用の LSI 大容量ストレージドライバを読み込む必要があります。この LSI 大容量ストレージドライバは、内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブで使用でき、Oracle System Assistant にはこれを読み込むためのツールが用意されています。

表1 大容量ストレージドライバを必要とする、サポートされている SAS PCIe HBA

サポートされている SAS PCIe HBA	オプション番号	インストール中に必要なドライバ
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA (内蔵)	SG-SAS6-R-INT-Z	LSI MegaRAID SAS 92xx-xx
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (内蔵)	SG-SAS6-INT-Z	LSI Adapter SAS 2008 Falcon
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (外付け)	SG-SAS6-EXT-Z	LSI Adapter SAS 2008 Falcon

Windows Server 2008 SP2 のインストール中に LSI 大容量ストレージドライバを読み込む手順については、37 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) のインストール」の手順 8 を参照してください。

サーバーに内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブが搭載されていない場合は、LSI 大容量ストレージドライバを含む ISO イメージをダウンロードできます。ダウンロード手順については、57 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためのコンソールへの接続オプションについて説明します。

- 13 ページの「コンソール表示オプション」
- 13 ページの「ローカルコンソールを設定する」
- 14 ページの「リモートコンソールを設定する」

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末
端末を、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続した端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) と 2 つの背面 USB コネクタに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への SSH クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

- 1 ローカルコンソールに接続するには、次のいずれかを行います。

- 直接または端末エミュレータを介して、シリアル管理ポート (SER MGT) に端末を接続します。
 - VGA モニター、キーボード、およびマウスをビデオポート (VGA) および USB ポートに接続します。
- 2 シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには:
- a. Oracle ILOM のユーザー名およびパスワードを入力します。
 - b. Oracle ILOM ログインプロンプトで、次のように入力します:
-> **start /HOST/console**
- シリアル管理ポート出力は、Linux ホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

▼ リモートコンソールを設定する

- 1 サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。
手順については、『設置』の「サーバー SP の IP アドレスの確認」を参照してください。
- 2 Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、以下の手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。
 - b. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
 - c. Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。
 - d. 必要に応じて、「Devices」メニューでデバイスのリダイレクト(マウス、キーボードなど)を有効にします。

- 3 SSHクライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。
 - a. シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します (`ssh root@hostname`。ここでは、`hostname` はサーバー SP の DNS 名または IP アドレス)。
 - b. Oracle ILOM にログインします。
 - c. 次を入力して、シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします:
-> `start /HOST/console`

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

ブートメディアオプションの選択

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。このセクションでは、サポートされているメディアソースと各ソースのセットアップ要件について説明します。

- 15 ページの「ブートメディアオプションの要件」
- 16 ページの「ローカルブートメディアオプションを設定する」
- 16 ページの「リモートブートメディアオプションを設定する」

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- 15 ページの「ローカルブートメディアの要件」
- 16 ページの「リモートブートメディアの要件」

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

サポートされている OS のローカルブートメディアソースには、次のものがあります:

- CD/DVD-ROM インストールメディア

- 該当する場合は、フロッピーディスクドライブメディア

リモートブートメディアの要件

リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールをブートする必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーディスクドライブメディア
- CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーディスクドライブメディア
- 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要)

▼ ローカルブートメディアオプションを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次のステップを実行します。

- 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面パネルに適切なストレージデバイスを接続します。
ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『設置』、「サーバーの配線」を参照してください。

▼ リモートブートメディアオプションを設定する

リモートの場所にあるメディアから OS をインストールするには、次のステップを実行します。

- 1 リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、以下の手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. OS ブートメディアをマウントまたは認識させてアクセスできるようにします。例:
 - **CD/DVD-ROM** の場合、内蔵または外付け CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
 - **CD/DVD-ROM ISO** イメージの場合、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できることを確認します。

- デバイスドライバフロッピーの ISO イメージの場合、ISO イメージが (該当する場合) ネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認します。
 - b. サーバー Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。
詳細は、13 ページの「コンソール表示オプションの選択」に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。
 - c. Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Devices」メニューで、次のようなブートメディアの場所を指定します:
 - CD/DVD-ROM ブートメディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。
 - CD/DVD-ROM ISO イメージブートメディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。
 - フロッピーデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy」を選択します (該当する場合)。
 - フロッピーイメージのデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。
- 2 PXE を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。
- a. PXE ブートを使用して、インストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを構成します。
 - b. OS インストールメディアを PXE ブートで利用できるようにします。
自動 OS インストールイメージを使用する場合は、自動 OS インストールイメージを作成して提供する必要があります。
インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、Windows オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。
 - c. インストールメディアをブートするには、一時ブートデバイスとして PXE ブートインタフェースカードを選択します。

インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先の設定方法について説明します。

- 18 ページの「インストール先のオプション」
- 18 ページの「ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する」
- 18 ページの「インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する」

インストール先のオプション

組み込み型 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (Oracle System Assistant 用に予約されています) を例外として、サーバーに取り付けられている任意のストレージドライブにオペレーティングシステムをインストールできます。これらにはハードディスクドライブ (HDD) と半導体ドライブ (SSD) があります。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けの FC ストレージデバイスにインストールすることも選択できます。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する

- HDD または SSD が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。
HDD または SSD の取り付けと電源の投入方法については、『サービス』、「ストレージドライブの保守 (CRU)」を参照してください。

▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する

- 1 PCIe ホストバスアダプタ (HBA) がサーバーに正しく取り付けられていることを確認します。
PCIe HBA オプションの取り付けに関する詳細は、『サービス』、「PCIe カードの保守 (CRU)」を参照してください。
- 2 Storage Area Network (SAN) をインストールおよび構成して、サーバーホストでストレージデバイスが認識されるようにします。
手順については、ファイバチャネル HBA 付属のドキュメントを参照してください。

Windows OS のインストールオプション

OS は、単一のサーバーまたは複数のサーバーにインストールするよう選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、2つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用すると、複数のサーバー上に OS をインストールできます。詳細は、 http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html にアクセスしてください
単一のサーバー	<p>次のいずれかの方法を使用して、OS を単一のサーバーにインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。 ■ リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されます。Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、手動による OS のインストールを実行します。 <p>注 - Oracle は、単一サーバーでの OS のインストールには Oracle System Assistant を使用することをお勧めします。</p>

単一サーバーに OS をインストールする方法と Oracle System Assistant の詳細については、次を参照してください:

- 19 ページの「サーバー 1 台構成のインストール方法」
- 21 ページの「Oracle System Assistant の概要」

サーバー 1 台構成のインストール方法

Windows インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します (推奨)。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、Windows 配布メディア。詳細は、20 ページの「補助付き OS インストール」を参照してください。

メディアの配布方法	その他の要件
リモートでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します (推奨)。	Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、リダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および Windows 配布メディア。詳細は、 20 ページの「補助付き OS インストール」 を参照してください。
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 – サーバーに接続された物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、Windows 配布メディア。詳細は、 20 ページの「手動 OS インストール」 を参照してください。
リモートでの CD/DVD ドライブまたは CD/DVD の ISO イメージの使用 – Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上の、リダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを実行しているリモートシステム、物理 CD/DVD ドライブが接続されていること、Windows 配布メディア、サーバーの管理ポートに対するネットワークアクセス。詳細は、 20 ページの「手動 OS インストール」 を参照してください。
WDS WIM イメージ – Windows 展開サービス (WDS) サーバー上のカスタマイズされた Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用します。	WDS を実行しているサーバー、使用しているサーバー用にカスタマイズされた WIM イメージ。詳細は、 21 ページの「Windows 展開サービス OS のインストール」 を参照してください。

補助付き OS インストール

これは、サポートされている OS をサーバーにインストールするための推奨される方法です。この方法では、Oracle System Assistant アプリケーションを使用します。ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで Windows OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant がインストールプロセスを進め、必要に応じて必要なドライバを収集しインストールします。Oracle System Assistant は、使用しているサーバーでサポートされている必要があり、そのサーバーにインストールされている必要があります。

手動 OS インストール

この方法を使用すると、Windows 配布メディアをローカルまたはリモートのいずれかの CD/DVD ドライブ、USB ドライブ、または CD/DVD イメージに配布できます。必要なドライバをインストールする必要もあります。サーバー用のドライバは、サーバー内蔵の Oracle System Assistant フラッシュドライブ (取り付けられている場合) に用意されており、My Oracle Support Web サイトから OS 別およびサーバー別のパッケージを ISO イメージファイルとして入手することもできます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Windows 展開サービス OS のインストール

展開サーバー環境から Windows OS をインストールできます。上級ユーザーは、Windows 展開サービス (WDS) を実行しているシステム上のサーバー用にカスタマイズされた Windows Imaging Format (WIM) イメージを作成できます。こうしたインストールイメージファイルを作成しておく、ネットワークカードからサーバーをブートして、無人展開用に WDS システムからそのイメージを選択することが可能です。WDS の詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc770667%28WS.10%29.aspx> を参照してください。

Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、Oracle x86 サーバー用の単一サーバーシステム管理ツールです。これは、Oracle の Single System Management 製品、Oracle System Assistant アプリケーション、および選り抜きの関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に起動し保守できるようにするツール群を提供します。Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです：

- Oracle System Assistant アプリケーション
- Oracle Hardware Management Pack
- 起動と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle System Assistant のコマンド行環境
- オペレーティングシステム用のドライバとツール。
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant は、組み込まれたストレージデバイスとしてサーバー内に置かれ、オンラインアップデートなどを使用してそれぞれ保守されるサーバー固有バージョンのツールとドライバとともに工場で構成されます。

Oracle System Assistant の詳細については、次のトピックを参照してください。

- [21 ページの「Oracle System Assistant のタスク」](#)
- [22 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」](#)
- [23 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant の使用方法の詳細は、『管理』の「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

Oracle System Assistant のタスク

Oracle System Assistant アプリケーションには、もっとも一般的かつ有用な単一サーバー管理プロビジョニングタスク一式が選択され、まとめられています。

次のタスクは、迅速で便利なサーバーの起動と継続的なサーバー管理を可能にします。

- システムの概要とシステムインベントリ情報
- すべてのコンポーネント (ツール、ドライバ、ファームウェアなど) のオンラインアップデートの取得
- システムファームウェア (BIOS および Oracle ILOM) とホストバスアダプタファームウェアの更新
- RAID、Oracle ILOM、および BIOS 構成
- 補助付き OS インストール
- ネットワーク構成
- 機能と組み込まれたメディア整合性チェックの無効化
- 多言語キーボード
- 実行環境を使用可能にする Oracle System Assistant シェル端末ウィンドウ
- Oracle Hardware Management Pack へのアクセス (Oracle System Assistant シェルを使用)
- Oracle System Assistant の復旧

Oracle System Assistant の OS のインストールタスク

Oracle System Assistant アプリケーションの「Install OS」タスクを実行すると、サポートされる OS をガイドに従ってインストールできます。OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant の手順に従ってインストールプロセスを実行できます。続いて、サーバーハードウェア構成に基づいて、適切なドライバをフェッチします。OS のインストールタスクは、サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムに使用できるわけではありません。

Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバと他のファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、および該当する場合はエクспанダ) を更新する場合は、OS をインストールする前にその更新を実行するようにしてください。

Oracle System Assistant には、ローカルコンソール接続を使用してローカルからアクセスすることも、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してリモートからアクセスすることもできます。

サーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant をローカルで (サーバーの側にいながら) 使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に起動できます。サーバーが動作すると、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

Oracle System Assistant の取得

Oracle System Assistant がサーバーでサポートされているため、Oracle System Assistant USB フラッシュドライブがすでにサーバーに取り付けられている可能性があります。取り付けられている場合、Oracle System Assistant の「Get Updates」タスクを使用して、最新のソフトウェアリリースに更新できます。Oracle System Assistant がサーバーにインストールされているが、破壊または上書きされている場合は、My Oracle Support サイトから OSA アップデータイメージをダウンロードしてください。ダウンロード手順については、[57 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。

関連情報

- 『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」

オペレーティングシステムのインストールの準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
BIOS の設定。	25 ページの「BIOS の設定」
サーバーで RAID を構成します。	30 ページの「RAID の構成」

BIOS の設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、BIOS 設定が構成されていることを確認する必要があります。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- [26 ページの「BIOS の出荷時デフォルトの確認」](#)
- [28 ページの「レガシー BIOS と UEFI BIOS モードの切り替え」](#)

関連情報

- [32 ページの「Oracle System Assistant を使用した Windows Server 2008 の単一システムへのインストール」](#)
- [36 ページの「メディアを使用した Windows Server 2008 の単一システムへのインストール」](#)

▼ BIOS の出荷時デフォルトの確認

注-サーバーを新しく設置し、オペレーティングシステムをはじめてインストールした場合、通常BIOSはデフォルトに設定されていて、このタスクを実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティーでは、最適なデフォルトに設定できるほか、必要に応じて BIOS 設定を表示し編集できます。BIOS 設定ユーティリティー (F2 キー) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 キーを使用することで、一時ブートデバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 キーで指定した常時ブートデバイスが有効になります。

始める前に 次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されている。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されている。詳細な手順については、『サービス』、「ストレージドライブの保守 (CRU)」を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は、[13 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。

1 サーバーをリセットするか、電源を投入します。

例:

- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「**Host Management**」 > 「**Power Control**」を選択し、「**Select Action**」リストボックスから「**Reset**」を選択します。
- **Oracle ILOM CLI** で、プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
-> reset /System
```

BIOS 画面が表示されます。



- 2 BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、**F2**を押して**BIOS 設定ユーティリティー**にアクセスします。
しばらくすると、**BIOS 設定ユーティリティー**が表示されます。
- 3 出荷時のデフォルト値に設定するために、次を実行します。
 - a. **F9**を押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。
メッセージが表示され、「**OK**」を選択してこの操作を続けるか、「**CANCEL**」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
 - b. メッセージで「**OK**」を強調表示して、**Enter**を押します。
BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、システム時間の欄の最初の値でカーソルが強調表示されます。
- 4 BIOS 設定ユーティリティーで次の手順を実行して、システム時間またはシステム日付に関する値を編集します。
 - a. 変更する値を強調表示します。
上下の矢印キーを使用して、システムの時間と日付の選択を変更します。
 - b. 強調表示された欄の値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス(+)を押すと、表示されている現在の値が増加します
 - マイナス(-)を使用すると、現在表示されている値が減少します
 - **Enter**を押すと、カーソルが次の値の欄に移動します
- 5 ブート設定にアクセスするには、「**Boot**」メニューを選択します。
「**Boot**」メニューが表示されます。

- 6 「**Boot Settings**」メニューで、下矢印キーを使用して「**Boot Device Priority**」を選択し、**Enter**を押します。
「**Boot Device Priority**」メニューが表示され、認識されているブートデバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、ブートの優先度がもっとも高いデバイスです。
- 7 「**Boot Option Priority**」メニューで次の手順を実行して、リストの最初のブートデバイスエントリを編集します:
 - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、**Enter**を押します。
 - b. 「**Options**」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時ブートデバイスを選択し、**Enter**を押します。

注-変更する各デバイス項目に対して手順7aおよび7bを繰り返して、リスト内のほかのデバイスのブート順を変更できます。

- 8 変更を保存して**BIOS**設定ユーティリティを終了するには、**F10**を押します。
または、「**Save & Exit**」メニューで「**Save and Reset**」を選択して変更を保存し、**BIOS**設定ユーティリティを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「**OK**」を選択して、**Enter**を押します。

注-Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、**F10**はローカルOSにトラップされます。このため、リモートコンソールアプリケーションの上部にある「**Keyboard**」ドロップダウンメニューから「**F10**」オプションを使用する必要があります。

▼ レガシー BIOS と UEFI BIOS モードの切り替え

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方をサポートしています。デフォルト設定はレガシー BIOS です。オペレーティングシステムによっては、レガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしているものも、レガシー BIOS だけをサポートしているものもあるので、ユーザーには次のオプションがあります。

- インストールするオペレーティングシステムがレガシー BIOS だけをサポートしている場合は、OS のインストールを行なう前に、BIOS がレガシーモードに設定されていることを確認する必要があります。
- インストールするオペレーティングシステムがレガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしている場合は、OS のインストールを実行する前に、レガシーモードと UEFI モードのどちらかに BIOS を設定できます。

注 - Windows Server 2008 オペレーティングシステムはレガシーとUEFIの両方のBIOSモードをサポートしているので、OSのインストールに使用するモードを選択できます。

注 - オペレーティングシステムをインストールしたあとで、レガシーBIOSからUEFI BIOSに、またはその逆に切り替えることにした場合、すべてのパーティションを削除して、オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

1 サーバーをリセットするか、電源を投入します。

例:

- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して(約1秒)サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- Oracle ILOM Web インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- Oracle ILOM CLIで、プロンプトから次のコマンドを入力します。
-> `reset /System`

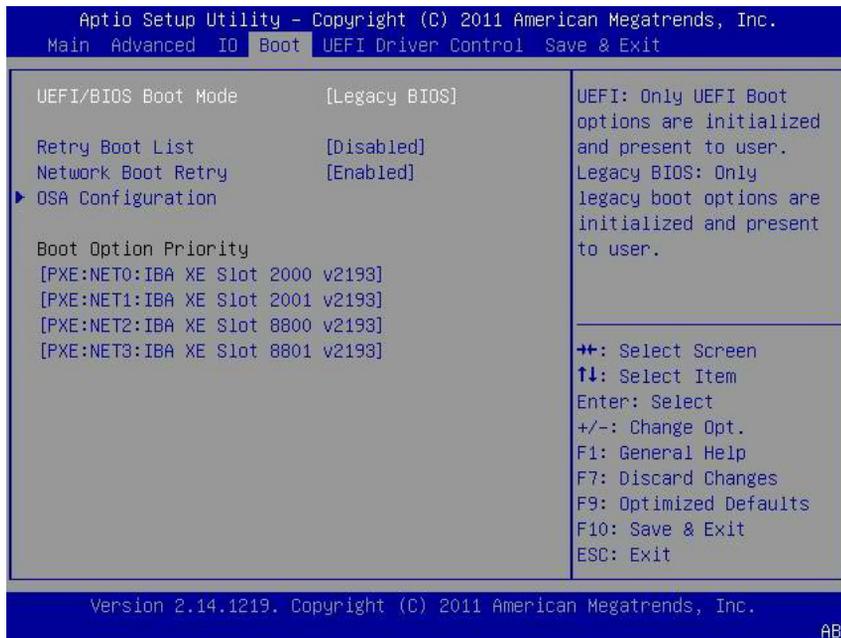
BIOS画面が表示されます。



2 BIOS画面でプロンプトが表示されたら、F2を押してBIOS設定ユーティリティーにアクセスします。

しばらくすると、BIOS設定ユーティリティーが表示されます。

- 3 BIOS 設定ユーティリティーで、上部のメニューバーから「Boot」を選択します。
「Boot」メニュー画面が表示されます。



- 4 「UEFI/BIOS Boot Mode」欄を選択し、+/- キーを使用して、UEFI に設定を変更します。
- 5 変更を保存して BIOS を終了するには、F10 キーを押します。

RAID の構成

RAID 構成でサーバストレージドライブを構成する場合は、Windows OS をインストールする前に、サーバーで RAID を構成してください。RAID の構成手順については、『設置』の「RAID の構成」を参照してください。

関連情報

- 『管理』、「RAID の構成」

Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、Microsoft Windows Server 2008 SP2 または Windows Server 2008 R2 SP1 オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。

説明	リンク
OS のインストールを開始する前に。	31 ページの「準備作業」
Oracle System Assistant を使用した、Windows オペレーティングシステムのインストール。	32 ページの「Oracle System Assistant を使用した Windows Server 2008 の単一システムへのインストール」
メディアを使用した、Windows オペレーティングシステムのインストール。	36 ページの「メディアを使用した Windows Server 2008 の単一システムへのインストール」

準備作業

次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーのストレージドライブで RAID (Redundant Array of Independent Disks) を構成する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に行う必要があります。RAID の構成の詳細については、『[設置](#)』、『[RAID の構成](#)』を参照してください。

注 - サーバーに Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (SGX-SAS6-R-INT-Z) が装備されている場合、オペレーティングシステムをインストールする前に、RAID ボリュームを作成し、それをブート可能に設定する必要があります。そうしないと、HBA はサーバーのストレージドライブを識別できません。

- BIOS 設定がデフォルトに設定されていることを確認します。BIOS 設定を確認し、必要に応じて設定する手順については、[26 ページの「BIOS の出荷時デフォルトの確認」](#)を参照してください。
- BIOS が、レガシー BIOS と UEFI BIOS のうち目的のモードに構成されていることを確認します。BIOS モードを設定する手順については、[28 ページの「レガシー BIOS と UEFI BIOS モードの切り替え」](#)を参照してください。

- インストールの実行前に、コンソール表示オプションが選択および設定されている必要があります。このオプションと設定手順の詳細については、13 ページの「コンソール表示オプションの選択」を参照してください。
- ブートメディアオプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションと設定手順の詳細については、15 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。
- インストール先オプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションと設定手順の詳細については、17 ページの「インストール先オプションの選択」を参照してください。
- ローカルインストールの場合、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブに Windows インストールメディアを挿入します。
- リモートインストールの場合、Oracle ILOM リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブに Windows インストールメディアを挿入します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM」を選択していることを確認します。
- Windows イメージインストールの場合、Oracle ILOM リモートコンソールシステムから Windows ISO イメージにアクセスできることを確認します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM Image」を選択していることを確認します。
- Microsoft Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) オペレーティングシステムのドキュメントを取得して、このセクションの Windows Server オペレーティングシステムに関する説明と併せて参照してください。Microsoft の Windows Server 2008 インストールドキュメントは、<http://www.microsoft.com/windowsserver2008/en-us/product-documentation.aspx> で入手できます。

Oracle System Assistant を使用した Windows Server 2008 の単一システムへのインストール

サポートされる Microsoft Windows Server 2008 OS をサーバーにインストールする場合、Oracle System Assistant アプリケーションの「Install OS」タスクが推奨される方法です。

- 32 ページの「Oracle System Assistant を使用した Windows Server 2008 の単一システムへのインストール」

▼ Oracle System Assistant を使用した Windows Server 2008 の単一システムへのインストール

- 始める前に
- 25 ページの「オペレーティングシステムのインストールの準備」の手順を実行済み。

- ブートドライブ(つまり、Windows Server 2008 OS をインストールするストレージドライブ)を RAID 用に構成する場合は、OS をインストールする前に構成しておく必要があります。サーバーで RAID を構成する方法については、『設置』、「RAID の構成」を参照してください。

1 インストールメディアがブートに使用できることを確認します。

- ディストリビューション CD/DVD を使用する場合 Windows 2008 配布メディア (番号 1 が付いた CD、または単一の DVD) をローカルまたは外付けの USB CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
- ISO イメージを使用する場合。ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションが最初の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。
インストールメディアの設定方法については、15 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。

2 次の2つの方法のどちらかで Oracle System Assistant を起動します。

- **Oracle ILOM Web** インタフェースから、「Summary」>「Launch Oracle System Assistant」をクリックします。

ORACLE Integrated Lights Out Manager

User: root Role: auroc SP H

System Information

- Summary
- Processors
- Memory
- Power
- Cooling
- Storage
- Networking
- PCI Devices
- Firmware
- Open Problems (0)
- Remote Control
- Host Management
- System Management
- Power Management
- ILOM Administration

Summary

View system summary information. You may also change power state and view system status and fault information.

General Information

Model	SUN FIRE X4170 M3
Serial Number	012345678
System Type	Rack Mount
System Identifier	OSA Team Test Nashua
System Firmware Version	ILOM: 3.1.0.0 BIOS: 17010608
Primary Operating System	-
Host Primary MAC Address	-
ILOM Address	10.153.55.202
ILOM MAC Address	00:21:28:D5:C0:CE

Actions

Power State ON

Locator Indicator OFF

Oracle System Assistant Version: 1.0.0.0

System Firmware Update

Remote Console

Status

Overall Status: OK Total Problem Count: 0

Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: 2 Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum):
Memory	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Installed RAM Size: 16 GB	DIMMs (Installed / Maximum):
Power	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Permitted Power Consumption: 590 watts	PSUs (Installed / Maximum):

- サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。
例:

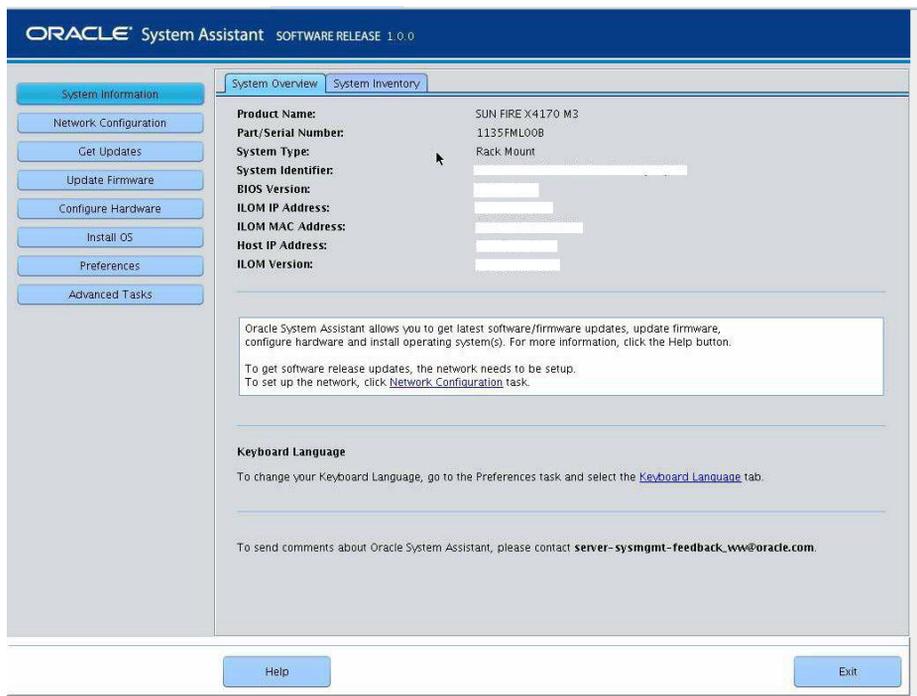
- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して(約1秒)サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM CLI** で「**reset /System**」と入力します
BIOS 画面が表示されます。



注-次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3 F9 キーを押します。

「Oracle System Assistant System Overview」画面が表示されます。



4 最新のソフトウェアリリースパッケージを更新するには、「Get Updates」ボタンをクリックします。

この操作により、OS のインストール開始前に、アプリケーションに最新のソフトウェアリリースパッケージが確実にインストールされます。

注 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。

5 サーバーのファームウェアを更新するには、「Update Firmware」ボタンをクリックします。

この操作により、OS のインストール開始前に、サーバーのファームウェアおよび BIOS が確実に最新のものになります。

6 OS をインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。

「Install OS」画面が表示されます。

7 「Supported OS」ドロップダウンリストから OS を選択します。

- 8 画面の「**Select a BIOS mode if applicable**」の部分で、**OS**のインストールに使用する**BIOS モード (UEFI またはレガシー BIOS)**を選択します。
- 9 「**Select your media location**」セクションでインストールメディアの場所を指定します。
これは OS 配布メディアの場所です。CD/DVD デバイスを選択できます。

注 - Oracle System Assistant は、PXE (Preboot eXecution Environment) インストールをサポートしません。

- 10 「**View Installation**」オプションをクリックします。
「Installation Options」ダイアログが表示されます。
- 11 「**Installation Options**」ダイアログで、インストールしない項目を選択解除します。

注 - 「Installation Options」ダイアログで、「OS」と「Drivers」のオプションは必須であり、選択解除できません。

- 12 「**Operating System Installation**」画面の最下部にある「**OS Install**」ボタンをクリックします。
- 13 プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

メディアを使用した **Windows Server 2008** の単一システムへのインストール

このセクションでは、Microsoft Windows Server 2008 (64 ビット) オペレーティングシステムのインストール手順について説明します。

- 37 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) のインストール」
- 49 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) のインストール」

▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) のインストール

このセクションの手順では、ローカルまたはリモートのメディアから、Microsoft Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) オペレーティングシステムをブートする方法について説明します。次のいずれかのソースから Windows インストールメディアをブートするものとします:

- Windows Server 2008 SP2 または Windows Server 2008 R2 SP1 CD または DVD
- Windows Server 2008 SP2 または Windows Server 2008 R2 SP1 ISO イメージ
-

注 - Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) ISO イメージは、リモートインストール、またはインストール CD/DVD の作成に使用できます。

注 - PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、49 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) のインストール」で手順を確認してください。

- 1 インストールメディアがブートに使用できることを確認します。
 - ディストリビューション CD/DVD を使用する場合 Windows 2008 配布メディア (番号 1 が付いた CD、または単一の DVD) をローカルまたはリモートの CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - ISO イメージを使用する場合。ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションが ISO イメージの場所を認識していることを確認します。
インストールメディアの設定方法については、15 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。
- 2 サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

例:

 - ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。

- Oracle ILOM Web インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- Oracle ILOM CLI で「reset /System」と入力します
BIOS 画面が表示されます。



注- 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

- 3 BIOS 画面で、F8 を押して、Windows のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、BIOS をレガシーモードに構成したか UEFI モードに構成したかに応じて異なります。
 - レガシー BIOS の場合、次のような画面が表示されます:

```
Please select boot device:

SATA:HDD:P4: DV-W28SS-V
SAS:PCIE1:Bus 00-1212BED9 HITACHI H10606
USB:USBIN:ORACLE SSM PMAP
SAS:PCIE1:Bus 00-120F06A5 HITACHI H10603
USB:VIRTUAL:AMI Virtual CDROM 1.00
USB:USB2:SAMSUNG CDRW/DVD SM-352FT950
PXE:NET0:IBA XE Slot 4000 v2181
PXE:NET1:IBA XE Slot 4001 v2181
PXE:NET2:IBA XE Slot 8800 v2181
PXE:NET3:IBA XE Slot 8801 v2181
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

- UEFI BIOS の場合、次のような画面が表示されます:

```
Please select boot device:

[UEFI]USB:USB2:USB USB CD/DVD Drive
[UEFI]USB:VIRTUAL:USB USB CD/DVD Drive
[UEFI]SATA:HDD:DV-W28SS-V
[UEFI]USB:USBIN:USB USB Hard Drive
[UEFI]PXE:NET0:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET1:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET2:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET3:Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]Built-in EFI Shell
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

注-インストール時に表示されるブートデバイスメニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプによって異なる場合があります。

- 4 「Please Select Boot Device」メニューで、使用するように選択した Windows メディアのインストール方法と BIOS モードに応じたメニュー項目を選択し、Enter を押します。

例:

- Windows ローカル配布を選択した場合は、レガシー BIOS 画面から SATA:HDD:P4 DV-W28SS-V を選択するか、UEFI BIOS 画面から [UEFI]USB2:USB USB CD/DVR Drive を選択します。
- Oracle ILOM リモートコンソール配布を選択した場合は、レガシー BIOS 画面から USB:VIRTUAL:AMI VIRTUAL CDROM 1.00 を選択するか、UEFI BIOS 画面から [UEFI]USB:VIRTUAL:USB USB CD/DVD Drive を選択します。

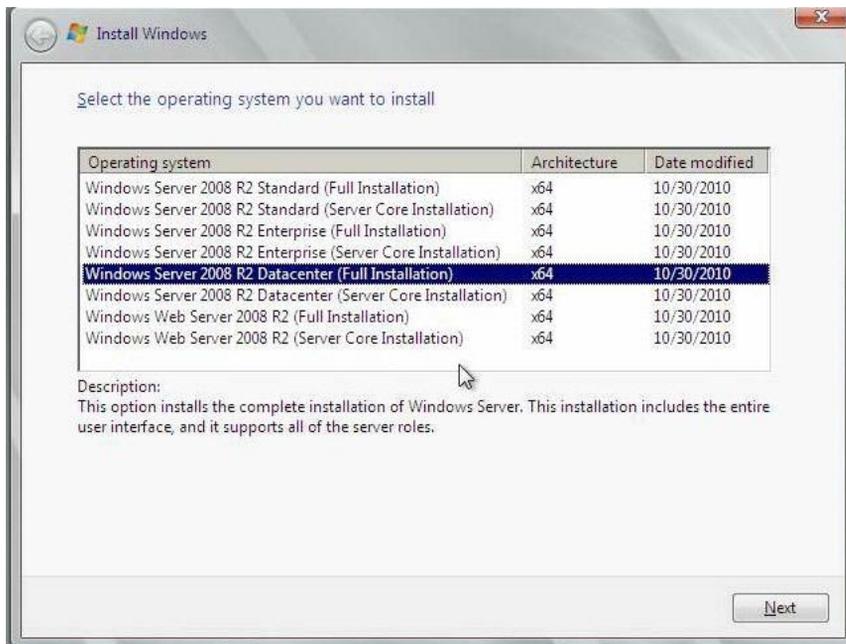
- 5 「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーを押します。

Windows インストールウィザードが起動します。

言語ローカリゼーションのダイアログが表示されるまで、Windows インストールウィザードを続行します。

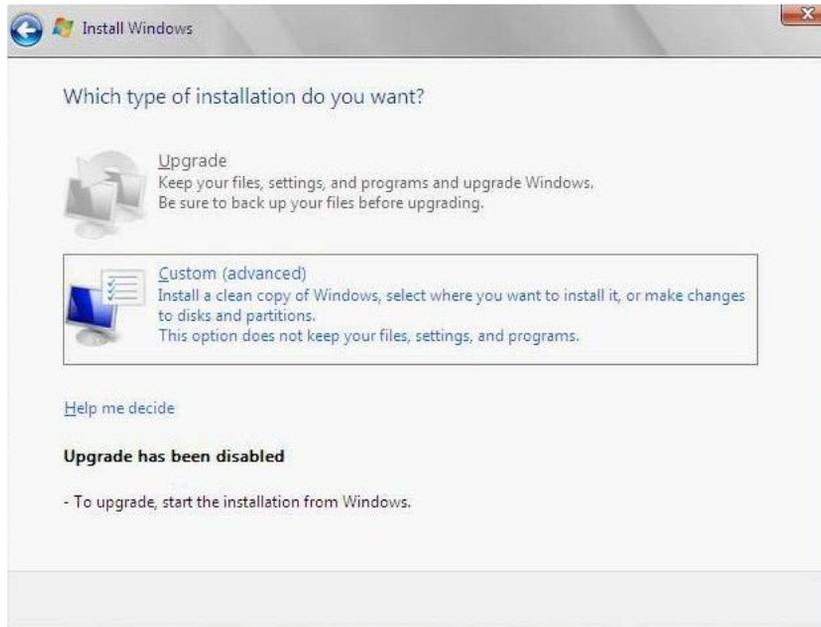


- 6 言語と他の設定を選択して、「次へ」をクリックして続行します。
オペレーティングシステムの選択ダイアログが表示されます。



注- 上記のダイアログは、Windows ソフトウェアライセンスの種類 (Educational、Volume、Retail) に応じて異なります。

- 7 オペレーティングシステムのダイアログで目的のオペレーティングシステムを選択して、「次へ」をクリックして続行します。
インストールの種類ダイアログが表示されます。



- 8 インストールの種類ダイアログで、「カスタム (詳細)」をクリックします。
「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログが表示されます。



- 9 「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログで、次のいずれかのタスクを実行します:
- (このタスクは、**Windows 2008 SP2** インストールのみに適用されます) ストレージ先が一覧表示されておらず、Sun Storage SAS PCIe RAID HBA オプションをサーバーで構成している場合は、「ドライバの読み込み」をクリックしてから、**手順 10**に進みます。
または
 - オペレーティングシステムをインストールするストレージ先が表示されるが、そのストレージ先に関連付けられたデフォルトのパーティション設定を変更する場合は、ストレージ先を選択し、「ドライブオプション (詳細)」をクリックしてから、**手順 11**に進みます。
または
 - オペレーティングシステムをインストールするストレージ先が表示され、そのストレージ先に関連付けられたデフォルトのパーティション設定を変更しない場合は、ストレージ先を選択し、「次へ」をクリックしてから、**手順 12**に進みます。

- 10 (「ドライバの読み込み」)「ドライバの読み込み」ダイアログで次を実行します。



- a. 選択したインストール方法に応じて、ドライバにアクセスできることを必ず確認してください(15 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照)。

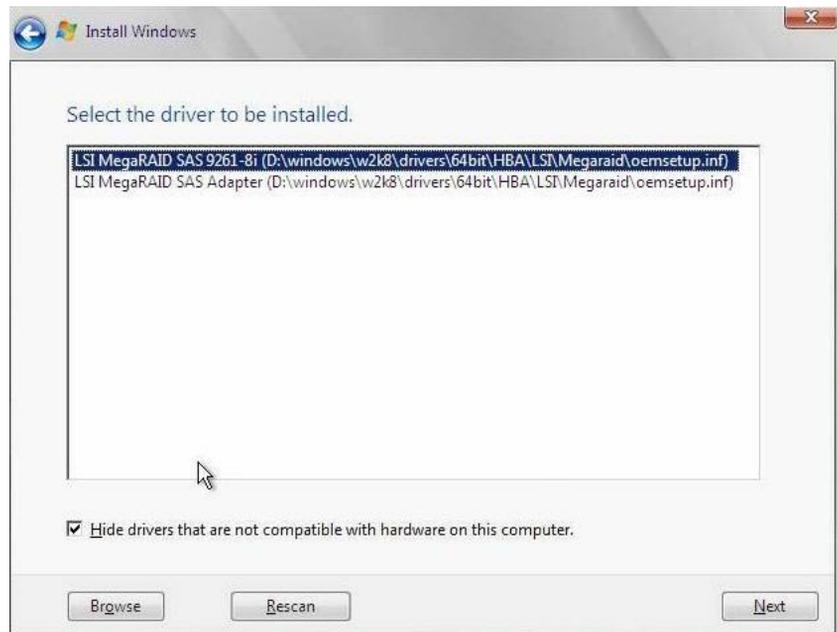
例:

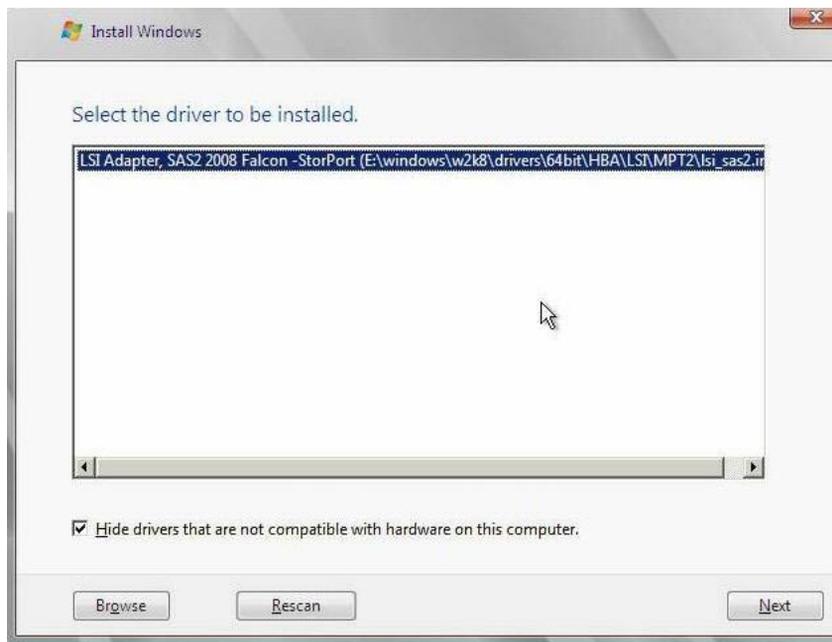
- ストレージドライバは、**Oracle ILOM** リモートコンソールからデバイスとしてマウントされたディスク上にあります。
 - ストレージドライバは、サーバーのシャーシ内に内蔵された **Oracle System Assistant USB** フラッシュドライブ(内蔵されている場合)などのローカル物理ストレージメディア、**CD/DVD**、または **Oracle ILOM** リモートコンソールからマウントされた仮想メディアにあります。
- b. 「ドライバの読み込み」ダイアログで「参照」をクリックし、次の説明に従って適切なドライバメディアフォルダに移動します。
- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA オプション (SG-SAS6-R-INT-Z) を使用して構成されたシステムの場合は、内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ上の次のディレクトリに移動して、適切な LSI ドライバを読み込みます:
windows/w2k8/drivers/LSI-HBA-MegaSAS2

- SG-SAS6-INT-Zか SG-SAS6-EXT-Z の Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA オプションを使用して構成されたシステムの場合は、内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ上の次のディレクトリに移動して、適切な LSI ドライバを読み込みます: windows/w2k8/drivers/LSI-HBA-MPT2
- c. 「フォルダを参照する」ダイアログで、適切なドライバを選択し、「OK」をクリックしてドライバを読み込みます。
- 「インストールするドライバを選択してください」ダイアログに、選択したドライバが表示されます。

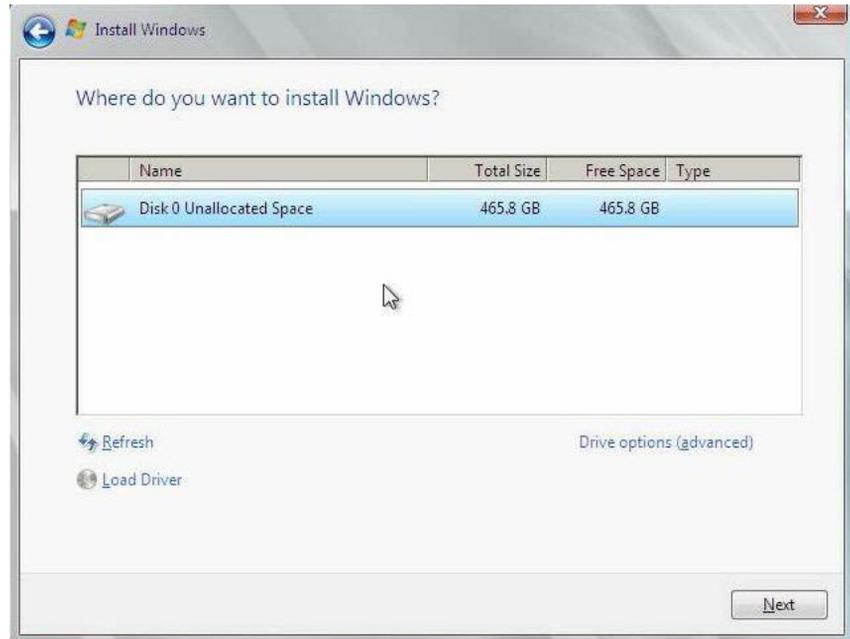
例:

- 次の2つのダイアログの例は、2つの SAS PCIe HBA オプション用にインストールするよう選択したドライバを示しています。SAS PCIe HBA ドライバは、Windows Server 2008 SP2 インストールにのみ必要です。





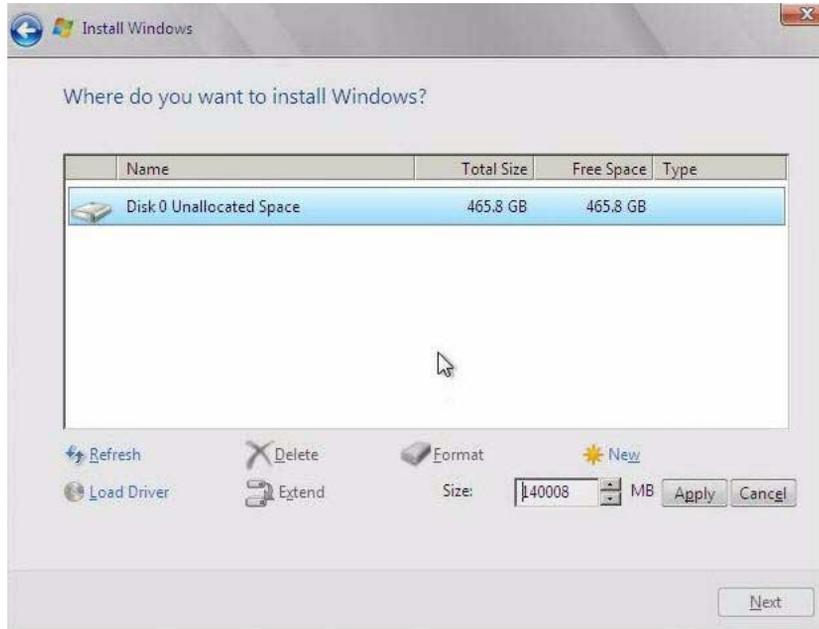
- d. 「インストールするドライブを選択してください」ダイアログで、「次へ」をクリックしてドライブをインストールします。
「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログが表示されず。



注 - ここまでに内蔵 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブからドライブを読み込むために Windows Server インストールメディアを取り出したりマウント解除したりした場合は、「このディスクに **Windows** をインストールすることはできません」というメッセージが表示されることがあります。このメッセージが表示された場合は、Windows インストールメディアを挿入または再マウントして、「最新の状態に更新」をクリックしてください。

- e. 「Windows のインストール場所を選択してください」ダイアログで、次のいずれかの操作を実行します:
- 一覧表示されているストレージ先を選択し、「次へ」をクリックしてオペレーティングシステムをインストールしてから、[手順 12](#)に進みます。
または
 - ターゲットディスクにパーティションが存在する場合は、セットアップで適切なパーティションを作成できるようにしておくことをお勧めします。既存のパーティションを削除するには、[手順 11](#)に進みます。

- 11 (パーティションドライブ、詳細) 「Windows のインストール場所を選択してください」 ダイアログの下部で、次の手順を実行します:



- a. 「削除」をクリックして、選択したストレージ先が存在するパーティション構成を削除します。
確認のウィンドウが表示されます。
 - b. 「OK」をクリックして、パーティションの削除を確定します。
 - c. ターゲットディスクにさらにパーティションが存在する場合は、手順aと手順bを繰り返します。
 - d. 「次へ」をクリックして、選択したストレージ先にオペレーティングシステムをインストールします。
- 12 Windows インストールプログラムが開始され、インストールプロセス中にサーバーが複数回リブートします。
- 13 Windows のインストールが完了すると、Windows が起動し、ユーザーパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。
- 14 ユーザーパスワードのダイアログで「OK」をクリックし、初期のユーザーログインアカウントを設定します。

注 - Windows Server 2008 では、ユーザーアカウントに対して厳格なパスワードキームが適用されます。パスワードの規格には、長さ、複雑さ、および履歴に関する制限が含まれています。詳細は、アカウント作成ページの「ユーザー補助」リンクをクリックしてください。

初期ユーザーアカウントが作成されると、Windows Server 2008 のデスクトップが表示されます。

- 15 [53 ページの「Windows Server 2008 のインストール後のタスク」](#)に進み、インストール後のタスクを実行します。

▼ PXE ネットワークブートを使用した Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) のインストール

このセクションでは、お客様提供の Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用し、確立された PXE ベースのネットワークを介して Microsoft Windows Server 2008 (SP2 または R2 SP1) オペレーティングシステムをインストールするために必要となる初期情報について説明し、従う必要のある手順を示します。

このセクションで説明する手順は、Windows 展開サービス (WDS) を使用してネットワーク経由で Windows 2008 をインストールするための最初の手順です。具体的には、WDS インストールサーバーと通信するサーバー PXE ネットワークインタフェースカードを選択する手順について説明します。WDS を使用して Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールする方法については、Windows 展開サービスに関する Microsoft のドキュメントを参照してください。

- 始める前に
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です:
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
 - PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。
 - PXE 構成からブートするように、サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
 - 動的ホスト構成プロトコル (Dynamic Host Configuration Protocol、DHCP) を構成します。
 - WDS を使用してインストールを実行するには、次のことが必要です:
 - 必要なシステムデバイスドライバを `install.wim` イメージ、および必要に応じて `boot.wim` イメージに追加します。

WIM インストールイメージにドライバを追加する手順については、Microsoft Windows 展開サービスのドキュメントを参照してください。

- WIM の管理者パスワードを取得します。
- 1 PXE ネットワーク環境が正しく設定され、**Windows** インストールメディアを PXE ブートで使用できることを確認します。
 - 2 サーバーをリセットするか、電源を投入します。

例:

- **Oracle** ローカルサーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切断し、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「**Host Management**」 > 「**Power Control**」をクリックし、「**Select Action**」リストボックスから「**Reset**」を選択します。
- サーバー SP の **Oracle ILOM CLI** で、次のように入力します:`reset /SYS S`
BIOS 画面が表示されます。

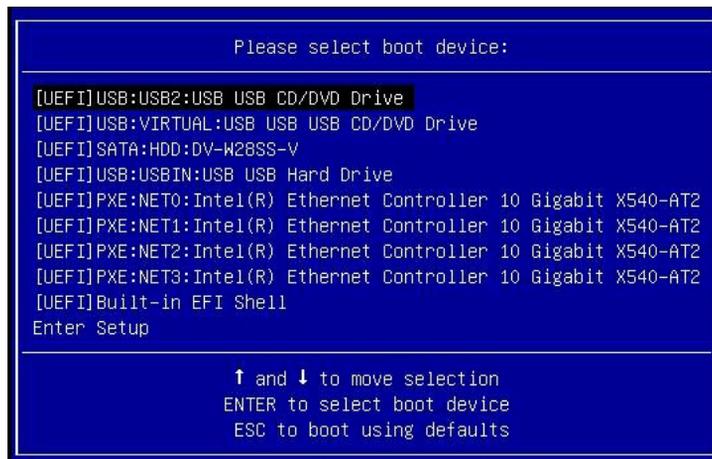


注- 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

- 3 BIOS 画面で、**F8** キーを押して、一時ブートデバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、BIOS をレガシーモードに構成したか UEFI モードに構成したかに応じて異なります。
 - レガシー BIOS の場合、次の画面が表示されます。



- UEFI BIOS の場合、次の画面が表示されます。



注-インストール時に表示されるブートデバイスメニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプによって異なる場合があります。

- 4 「Boot Device」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されたネットワークポートを選択します。

ネットワークブートローダーが読み込まれ、ブートプロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルの読み込みが開始されます。

- 5 インストールを完了するには、[37 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 \(SP2 または R2 SP1\) のインストール」](#)の手順5を参照してください。

Windows Server 2008 のインストール後のタスク

注- このセクションの手順では、手動手順を使用して、つまり Oracle System Assistant を使用せずに、Microsoft Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールしていることを前提としています。Oracle System Assistant を使用してオペレーティングシステムをインストールした場合は、Oracle System Assistant がインストール後のタスクを代わりに実行しているので、このセクションを飛ばしてかまいません。

Windows Server 2008 オペレーティングシステム (SP2 または R2 SP1) の手動インストールを完了してサーバーをリブートしたあとで、次に示すインストール後のタスクを確認し、必要に応じて、使用しているサーバーに対して該当するタスクを実行してください。

説明	リンク
追加ソフトウェアについて。	53 ページの「追加ソフトウェアコンポーネントオプション」
デバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールします。	54 ページの「デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール」
NIC チーミングを構成します。	56 ページの「Intel NIC チーミングの構成」

追加ソフトウェアコンポーネントオプション

Oracle System Assistant は、複数の追加ソフトウェアコンポーネントをサーバーで使用できるようにします。インストールには次の2つのオプションがあります：

- **Typical:** 使用しているサーバーに適用可能なすべての追加ソフトウェアをインストールします。
- **Custom:** 選択した追加ソフトウェアのみをインストールします。

表 2 には、Oracle System Assistant によってサーバーで使用できるようになるオプションの追加ソフトウェアコンポーネントが示されています。

表2 オプションの追加ソフトウェア

使用可能な追加ソフトウェアコンポーネント	LSI統合RAIDコントローラ
<p>LSI MegaRAID Storage Manager</p> <p>SAS内蔵RAID ホストバスアダプタ (HBA) で RAID を構成、監視、および保守できます。</p>	通常
<p>Hardware Management Pack</p> <p>Hardware Management Pack は、サーバーを管理および構成する際に役立つツールを備えています。次のことが可能になります:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オペレーティングシステムレベルで管理エージェントを使用すると、SNMP (Simple Network Management Protocol) を介したサーバーハードウェアの帯域内監視が可能になります。この情報を使用して、サーバーをデータセンター管理基盤に統合できます。 ■ 管理エージェントを使用すると、RAID アレイを含むサーバーのストレージデバイスの帯域内監視が可能になります。この情報は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web インタフェースまたはコマンド行インタフェース (Command-Line interface、CLI) から表示できます。 ■ ホストのオペレーティングシステムで実行し、ホストの BIOS CMOS 設定、ホストのブート順序、および一部のサービスプロセッサ (SP) の設定を構成する、BIOS 構成ツールを使用します。 ■ IPMItool を使用して、IPMI プロトコルを介してサーバーのサービスプロセッサにアクセスし、管理タスクを実行します。 	通常以外
<p>Intel NIC チーミング</p> <p>サーバー上のネットワークインタフェースを、仮想インタフェースと呼ばれる物理ポートのチームにグループ化できます。</p>	通常

デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール

InstallPack アプリケーションには、プラットフォーム固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールするためのインストールウィザードが用意されています。このアプリケーションは Oracle System Assistant に含まれており、My Oracle Support からダウンロードすることもできます。ダウンロード手順については、[57 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。

サーバーが Oracle System Assistant を備えており、これを使用してオペレーティングシステムをインストールした場合は、必要なプラットフォーム固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアは自動的にインストールされています。ただし、サーバーが Oracle System Assistant を備えていない場合は、OS (オペレーティングシステム) パックに含まれている InstallPack を使用して、プラットフォーム固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールできます。OS パックを取得する手順については、[57 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。

次の手順で、InstallPack を使用して、デバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

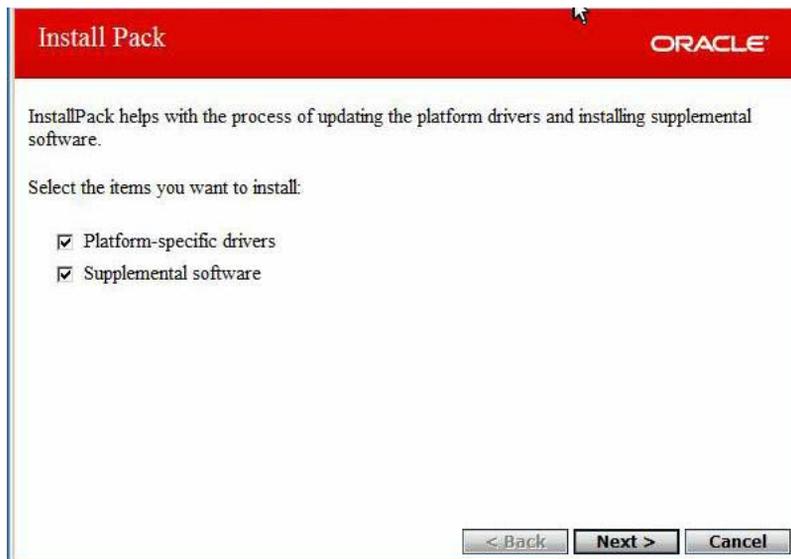
- 55 ページの「サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール」

関連情報

- 53 ページの「追加ソフトウェアコンポーネントオプション」

▼ サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール

- 1 インストールパックウィザードの実行可能ファイル **InstallPack.hta** をクリックします。
「Install Pack」ダイアログが表示されます。



- 2 「Install Pack」ダイアログで、「Next」をクリックして、デフォルトのインストール可能な項目を受け入れます。

注-最新バージョンのドライバを確実にインストールするために、「デフォルトのインストール可能な項目」を常に受け入れるようにしてください。

インストールパックの注意ダイアログが表示されます。

- 3 画面に表示されるプロンプトに従い、デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストールを完了します。

Intel NIC チーミングの構成

環境に合わせて Intel NIC チーミングを設定する方法の詳細は、Advanced Networking Services Teaming に関する次の Intel 接続 Web ページを参照してください。

<http://support.intel.com/support/network/sb/CS-009747.htm>

また、次の Web サイトで、使用しているサーバーのネットワークアダプタ用に、Intel のネットワーク接続のユーザーガイド一式をダウンロードできます。

<http://support.intel.com/support/network/sb/cs-009715.htm>

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

説明	リンク
サーバーファームウェアとソフトウェアのアップデートについて学びます。	57 ページの「ファームウェアとソフトウェアのアップデート」
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプションについて学びます。	58 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション」
使用可能なファームウェアとソフトウェアパッケージを確認します。	58 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
Oracle System Assistant、My Oracle Support、または物理メディアのリクエストにより、ファームウェアおよびソフトウェアパッケージにアクセスします。	60 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセス」
ファームウェアとソフトウェアのアップデートをインストールします。	64 ページの「更新のインストール」

ファームウェアとソフトウェアのアップデート

ファームウェアとソフトウェア (サーバーのハードウェアドライバやツールなど) は、定期的に更新されます。これらは、ソフトウェアリリースとして入手可能になります。ソフトウェアリリースは、サーバー用の使用可能なファームウェア、ハードウェアドライバ、ユーティリティをすべて含んだ一連のダウンロード (パッチ) です。これらすべては、まとめてテスト済みです。ダウンロードに含まれる ReadMe ドキュメントには、以前のソフトウェアリリースからの変更点および変更されていない点について説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になり次第、更新してください。ソフトウェアリリースにはしばしばバグの修正が含まれるため、更新により、サーバーソフトウェアと、最新のサーバーファームウェアおよびほかのコンポーネントのファームウェアとソフトウェアとの互換性が保証されます。

ダウンロードパッケージ内の ReadMe ファイルには、ダウンロードパッケージ内の更新されたファイル、および現在のリリースで修正されたバグに関する情報が含まれます。プロダクトノートには、サポートされるサーバーソフトウェアのバージョンに関する情報も含まれます。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション

次のオプションのいずれかを使用して、使用しているサーバーに対応した最新のファームウェアとソフトウェアのセットを取得します。

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、出荷時にインストール済みの Oracle x86 サーバー用オプションで、サーバーのファームウェアとソフトウェアを簡単にダウンロードおよびインストールできます。

Oracle System Assistant の使用に関する詳細は、『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

- **My Oracle Support** – すべてのシステムファームおよびソフトウェアは、<http://support.oracle.com> の My Oracle Support から入手できます。

My Oracle Support の Web サイトで入手できるデータの詳細については、58 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。

My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする手順については、60 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** – My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。

詳細は、61 ページの「物理メディアのリクエスト」を参照してください。

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support でのダウンロードは、プロダクトファミリー、製品、バージョンの順でグループ化されます。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは、実際のソフトウェア製品リリースではなく、サーバーの更新リリースのことです。これらの更新はソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

次の表に示すように、My Oracle Support には、このサーバーファミリー向けの同じダウンロードタイプのセットが含まれます。これらも、物理メディアのリクエスト

(PMR)を行なって依頼できます。Oracle System Assistant を使用しても、同じファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、およびオプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェア。	最新のファームウェアが必要なとき。
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - OS Pack	OS Pack は、サポートされるオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できません。各 OS Pack には、その OS バージョン用のツール、ドライバ、およびユーティリティのパッケージすべてが含まれます。 ソフトウェアには、Oracle Hardware Management Pack および LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。 Windows OS の場合、この OS Pack には Intel Network Teaming and Install Pack も含まれます。	OS 固有のドライバ、ツール、またはユーティリティを更新する必要があるとき。
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - All Packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメントを含みます。 このパックには、Oracle VTS や Oracle System Assistant イメージは含まれません。	システムファームウェアと OS 固有ソフトウェアの組み合わせを更新する必要があるとき。
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - Diagnostics	Oracle VTS 診断イメージ。	Oracle VTS 診断イメージが必要なとき。
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - Oracle System Assistant	Oracle System Assistant 復旧および ISO アップデートイメージ。	Oracle System Assistant を手動で回復および更新する必要があるとき。

各ダウンロードは zip ファイルで、ReadMe ファイル、およびファームウェアやソフトウェアファイルを含むサブディレクトリセットが格納されています。ReadMe ファイルには、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントおよび修正されたバグの詳細が記載されています。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセス

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエストするための手順について説明します。

Oracle System Assistant を使用して、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードして使用できます。詳細は、『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

更新されたファームウェアおよびソフトウェアを入手する方法は、ほかにも My Oracle Support を使用する方法と、物理メディアをリクエストする方法の2つがあります。参照先:

- 60 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」
- 61 ページの「物理メディアのリクエスト」

▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード

- 1 次の Web サイトに移動します。 <http://support.oracle.com>
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリー(拡張)」をクリックします。
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、目的の製品が表示されるまで製品名のすべてまたは一部を入力します。例: サーバー。
- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
- 7 「検索」をクリックします。
ダウンロードできるパッチが一覧表示されます。

入手できるダウンロードの説明については、58 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。

- 8 ダウンロードするパッチを選択するには、そのパッチをクリックします (Shift キーを使用すると、複数のパッチを選択できます)。アクションパネルがポップアップ表示されます。ポップアップパネルには、「計画に追加」および「ダウンロード」オプションを含め、いくつかのアクションオプションがあります。「計画に追加」オプションの詳細は、関連するドロップダウンボタンをクリックして、「なぜ計画を使用するのですか。」を選択してください。
- 9 パッチをダウンロードするには、ポップアップアクションパネルの「ダウンロード」をクリックします。
「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。
- 10 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、パッチの zip ファイルをクリックします。
パッチファイルがダウンロードされます。

物理メディアのリクエスト

Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) で最新のソフトウェアリリースを入手できます。

次の表に、物理メディアをリクエストするためのハイレベルタスク、および詳細情報の入手先のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストに必要な情報を収集します。	61 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」
オンラインまたは Oracle サポートに電話して物理メディアをリクエストします。	62 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」 63 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します。

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必須パッチを入手します。最新のソフトウェアリリースおよびリクエストしているダウンロードパッケージ (パッチ) の名前を知っていると、リクエストを実行しやすくなります。

- *My Oracle Support* にアクセスできる場合 - 60 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」の説明に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、入手可能なダウンロード (パッチ) を表示します。パッチのリストを表示したあと、ダウンロード手順を続行しない場合は「[パッチ検索結果](#)」ページからほかのページに移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 - 58 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」の情報を使用して、必要なパッケージを確認し、最新のソフトウェアリリースのパッケージを要求します。
- 出荷情報を手元に用意します。リクエストの際に、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所を入力する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト (オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、61 ページの「[物理メディアのリクエスト用の情報を収集する](#)」に記載された情報を収集します。

- 1 次の Web サイトにアクセスします:<http://support.oracle.com>。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページの右上の「問合せ先」リンクをクリックします。
- 4 「リクエストの説明」セクションに、次の情報を入力します。
 - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンメニューで、次を選択します。
ソフトウェアおよび OS メディアリクエスト
 - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、次の内容を入力します: **Sun Server X3-2** の最新ソフトウェアリリースの **PMR**。
- 5 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します。

質問	回答
メディアの入手をご希望ですか。	あり
どちらの製品ラインのメディアをご希望でしょうか。	Sun 製品
パッチをダウンロードするためのパスワードに関する問い合わせでしょうか。	なし
CD や DVD でパッチをご希望ですか。	あり

質問	回答
パッチを CD や DVD でご希望の場合、パッチの番号、OS とプラットフォームをお知らせください。	希望するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
ご希望の製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Server X3-2 バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号
希望されているメディアの OS とプラットフォームをお知らせください。	OS 固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここで OS を指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
メディアに言語は必要ですか。	なし

- 6 出荷先担当者の連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所の情報を入力します。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「ファイルのアップロード」の「関連ファイル」画面で「次へ」をクリックします。
情報を指定する必要はありません。
- 9 「関連ナレッジ」画面で、リクエストに該当するナレッジ記事を確認します。
- 10 「リクエストの送信」をクリックします。

▼ 物理メディアのリクエスト (電話)

始める前に リクエストを行う前に、[61 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」](#)に記載された情報を収集します。

- 1 次の **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある該当する番号を使用して、**Oracle サポート**に電話をかけます。
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>
- 2 **Sun Server X3-2** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を **Oracle サポート** に伝えます。
 - My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。
 - ソフトウェアリリースの情報にアクセスできない場合は、**Sun Server X3-2** の最新のソフトウェアリリースをリクエストします。

更新のインストール

次のセクションでは、ファームウェアとソフトウェア更新のインストールについて説明します。

- [64 ページの「ファームウェアのインストール」](#)
- [64 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」](#)

ファームウェアのインストール

更新済みのファームウェアをインストールするには、次のいずれかを使用します。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller で最新のファームウェアを Oracle から自動的にダウンロードすることも、Enterprise Controller に手動でロードすることもできます。どちらの場合も、Ops Center でファームウェアを1つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシにインストールできます。

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、最新のファームウェアを Oracle からダウンロードしてインストールできます。

詳細は、『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用して、システム内部のファームウェアを更新できません。

詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。

- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使用して更新可能な唯一のファームウェアです。

詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリを参照してください。

ハードウェアドライバと OS ツールのインストール

Oracle Hardware Management Pack などの、更新されたハードウェアドライバおよびオペレーティングシステム (OS) 関連のツールは、次のいずれかを使用してインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center**

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

- **Oracle System Assistant**

詳細は、『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

- JumpStart、KickStart、第三者のツールなどの、その他の配備機構。

詳細は、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

索引

B

BIOS

- 出荷時のデフォルト設定の確認
Windows OS, 26
- 設定
Windows OS, 25
- 設定を編集し表示する手順, 26, 29
- レガシーモードとUEFIの切り替え
Windows OS, 28

H

Hardware Management Pack

- 機能
Windows OS, 54

I

- Intel NIC チーミング構成, インストール後, 56

L

- LSI MegaRAID Storage Manager, Windows OS, 54

M

- My Oracle Support、ソフトウェアリリース
パッケージのダウンロードに使用する, 60

O

Oracle System Assistant

- 「Install OS」タスク
Windows OS, 22
- 概要
Windows OS, 21
- タスク
Windows OS, 21
- 入手, 23
Windows OS, 23

P

- PXE インストール, Windows OS, 50

R

RAID

- 構成
Windows OS, 30

W

- Windows OS, サポートされているオペレーティングシステム, 11
- Windows Server 2008
PXE ネットワークインストール, 49
メディアを使用したインストール, 33, 37
- Windows 展開サービス, Windows OS, 21

い

- インストール
 - Oracle Enterprise Manager Ops Center
 - Windows OS, 19
 - Oracle System Assistant
 - Windows OS, 20
 - Oracle System Assistant の使用
 - Windows OS, 32
 - PXE ネットワークブートの使用
 - Windows OS, 49
 - インストール先の選択
 - Windows OS, 43
 - インストールの種類の選択
 - Windows OS, 42
 - オプション
 - Windows OS, 18
 - 言語の選択
 - Windows OS, 40
 - 手動
 - Windows OS, 20
 - タスクマップ
 - Windows OS, 10
 - 単一のサーバー
 - Windows OS, 19
 - 特定のオペレーティングシステムの選択
 - Windows OS, 41
 - ドライバのロード
 - Windows OS, 44
 - メディアの使用
 - Windows OS, 36
 - ローカルまたはリモートのメディアの使用, 37
- インストール後
 - Intel NIC チーミングの構成
 - Windows OS, 56
 - タスクの概要
 - Windows OS, 53
 - 追加ソフトウェアのインストール
 - Windows OS, 53, 54
 - デバイスドライバのインストール
 - Windows OS, 54
- インストール先
 - オプション
 - Windows OS, 18

インストール先 (続き)

- ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイスの設定
 - Windows OS, 18
- ローカルストレージドライブの設定
 - Windows OS, 18
- インストール先オプション
 - 選択
 - Windows OS, 17
- インストールパック
 - 追加ソフトウェアのインストール
 - Windows OS, 54
- インストール方法, ブートメディアオプション, 15

お

- オペレーティングシステムのインストール
 - 概要, 9-23
 - サポートされているオペレーティングシステム, 11
- オペレーティングシステムのインストールの概要, 9-23

こ

- 構成
 - Intel NIC チーミング
 - Windows OS, 56
 - RAID
 - Windows OS, 30
- コンソール表示
 - オプション
 - Windows OS, 13
- コンソール表示オプション
 - 選択
 - Windows OS, 13

さ

- サーバー、電源のリセット, 50
- サポートされているオペレーティングシステム, 11

サポートされているオペレーティングシステム
(続き)

Windows OS, 11

そ

ソフトウェアリリースパッケージ, My Oracle
Support を使用してダウンロード, 60

た

タスクマップ
インストール
Windows OS, 10

つ

追加ソフトウェア
Hardware Management Pack
Windows OS, 54
LSI MegaRAID Storage Manager
Windows OS, 54
インストール
Windows OS, 54
追加ソフトウェアオプション, Windows OS, 53

て

デバイスドライバ
ドライバが必要な SAS PCIe HBA, 12
読み込む手順
Windows OS, 13

と

トピックのガイドライン, 57-65

ふ

ファームウェアとソフトウェア
アクセスオプション
Windows OS, 58
インストール
Windows OS, 64
更新
Windows OS, 57
更新のインストール
Windows OS, 64
ダウンロード
Windows OS, 60
ハードウェアドライバと OS ツールのインス
トール
Windows OS, 64
物理メディアをオンラインでリクエストする
Windows OS, 62
物理メディアを電話でリクエストする
Windows OS, 63
メディアのリクエストに関する情報の収集
Windows OS, 61
利用可能なパッケージ
Windows OS, 58
ブートメディア
要件
Windows OS, 15
ブートメディアオプション
選択
Windows OS, 15
ブートメディアのインストール, 15

り

リモートコンソール
設定
Windows OS, 14
リモートブートメディア
設定
Windows OS, 16

ろ

ローカルコンソール

設定

Windows OS, 13

ローカルブートメディア

設定

Windows OS, 16

要件

Windows OS, 15